

Brahms Programm

Feldeinsamkeit	野の寂しさ	Op.86-2
Die Mainacht	五月の夜	Op.48-2
Der Tod, das ist die kühre Nacht	死は冷たい夜	Op.96-1
Auf dem Kirchhofe	墓場にて	Op.105-4
Von ewiger Liebe	永遠の愛	Op.43-1
Ständchen	セレナーデ	Op.106-1

Duetsche Volkslieder **ドイツ民謡集**

Sag mir, o schönste Schäf'rin	ねえ 美しい羊飼いのお嬢さん
Erlaube mir, feins Mädchen	許しておくれ 美しいお嬢さん
Da unten im Tale	あの下の谷では
Schwesterlein	お姉さん
Wach auf, mein' Herzensschöne	おきなさい 愛しい人よ
All' mein Gedanken	すべての想いが
Es sthet ein' Lind	一本の菩提樹が

休 憩

3 Intermezzi	3つのインテルメッツォ	Op.117
--------------	-------------	--------

Vier ernste Gesänge	4つの厳肅な歌	Op.121
---------------------	----------------	--------

- . 人の成り行きは
- . 私はふりかえり見た
- . おお 死よ
- . たとえ私が人間の言葉や天使の言葉を

歌詞大意

Feldeinsamkeit **野の寂しさ** Op.86-2

Armors

僕は小高い緑の丘に座り
じっと空を見上げている
絶え間なく鳴き続けるこおろぎの音が
美しい空の青さがすべてをつつんでいる

美しい白い雲が流れていく
深い蒼い空を 静かな夢のように
ずっと前に僕は死んでしまっていて
魂が永遠の空間をゆっくりといくようだ

Die Mainacht **五月の夜** Op.43-2

Hölty

銀色の月が林の茂みからみえるとき
そのまどろむような光は
芝生一面にひろがり
小夜鳥が啼くとき
藪から藪へと寂しくさまよう

葉陰に身を隠し
つがいの鳩が愛を語り
その陶醉を僕に聞かせる
しかし僕はふり返り暗い方を探し
一人で涙を流す

朝焼けの光のように
微笑んでいる面影が
僕の心に浮かんでくる
この世で君に会えるだろうか？
すると孤独の熱い涙が
頬を伝わって落ちてくる

Der Tod, das ist die kühre Nacht
死は冷たい夜 Op.96-1

Heine

死は冷たい夜
人生はむしあつい昼
暮れてきて 睡くなる
昼は僕を疲れさせた

僕の寝床の上に樹が
そこで若い小夜鳥が啼いている
恋の歌ばかり歌うので
僕は夢の中でも聴いていた

Auf dem Kirchhofe **墓地にて** Op.105-4

v. Liliencron

その日は激しく雨が降り 嵐もよう

僕は多くの忘れられた墓地にいた
墓石や十字架は荒れはて 花は古び
墓碑銘は読むこともできない

その日は嵐もようで 雨も降り
墓石はすべて言葉が凍りついていた「過去」と
棺は静かにまどろみ
墓は静かに露にぬれて「救済」と

Von ewiger Liebe **永遠の愛** Op.43-1

Wentzig

暗く なんと森も野も暗いことよ
夜はすでに訪れ すべてが静まりかえった
どこにも光は見え 煙もない
そうだ 雲雀さえも今は黙っている

村から若者が出てきた
恋人を家に送って行く
柳の林のそばをとおりながら
思いの丈を語っていた

恥辱に耐えて 嘆いているなら
僕のことでも苦しんでいるのなら
僕らの愛を早く終わらせよう
かつて結ばれるときも早かったように
雨や風によって別れることにしよう
かつて結ばれるときも早かったように

乙女は口を開いた 乙女は語った
私たちの愛は 別れたりしたりはしないは
鋼や鉄よりも固いけれど
私たちの愛はもっと堅いのよ

鐵も鋼も鍛え直せるけれど
誰が私たちの愛を変えることができます
鉄も鋼も溶かされるけれど
私たちの愛は永久に続くのよ！

Ständchen **セレナーデ** Op.106-1

Kugler

月が山の上ののぼり
恋人たちにかくもふさわしい
庭には泉の音がする
その他は静かに静まりかえっている
壁の陰のそばに
三人の学生が立っている
笛やバイオリンやギターを持って
歌ったり奏でたりしている

調べは静かに彼女のもとに

夢の中に忍びこんでいく
金髪の恋人に乙女は
私を忘れないでね とささやく

ブラームス 「ドイツ民謡集」より

Sagt mir, o schnsöte Schafarin mein
ねえ 美しい羊飼いのお嬢さん

ねえ 素敵な眼差しの美しい羊飼いのお嬢さん！
誠実な羊飼いの僕が
あなたの家に入ってはいけませんか？
僕はもうずっと前から
あなたの戸口の前に立ってるんです
戸を開けて僕を中へ入れて下さいな
この戸を この戸をこの戸を！

「戸をたたいて 入ってこようって言うのは誰？
この小屋の戸は 開けませんからね
私は誰も入れもしませんからね
どんなに美しい男であったとしても・・・
私の心を苦しめないで
無駄よ 無駄よ 無駄よ」

闇夜の森の中で僕は道に迷ったのです
どうか僕を可愛そうと思いい
早く戸を開けて下さい
誠実な羊飼いにふさわしいように
僕はいつも振る舞ってきました
いつも いつも いつも
「では私はあわれみの心から
あなたの願いをききましょう
戸はすでにあいています
どうぞ私の小屋に来て下さい」
ああ、あなたの美しい姿・・・
しとやかで やさしく 美しい
美しい 美しい 美しい・・・」

「ああ なんと私は馬鹿だったことが
おお 美しい羊飼子さん！
もっと早く開ければよかった ごめんなさいね。
お入りなさい 私の美しい羊飼子さん
私はいつまでもあなたのもの
そう あなたの」

「おお 立派な羊飼いさん 私のそばに
家を建てて下さい
もう私はあなたのもとから離れません
私の心は、あなたのもの
愛に終わりが来ぬかぎり！」

Erlaube mir, fein's Mädchen
許しておくれ 美しいお嬢さん

許しておくれ 美しいお嬢さん 庭に入るのを許
して下さい
ばらが美しく咲いたのを見たいのです
ばらを手折るのを許して下さい
この今の瞬間のばらの美しさ若さが
僕を喜ばせるのです
おお お嬢さん
僕が庭の花を見てはいけないと
一体誰があなたに教えたのです？
ひとりでいる さびしいお嬢さん
あなたは僕の目を引きつけているのです

Da unten im Tale あの下谷では

あの下谷では 水が濁って流れている
そして 口で言えないほど あなたが好き

いつも愛だの 誠実だの言うけど
すこしはちがうこともあるでしょう

そして愛してると十回言っても
信じないでしょう 私は前へ進むだけ

愛して下さった事には感謝します
どこかで幸福になること 祈ってます

Schwesterlein お姉さん

お姉さん お姉さんってば
いつ僕たちは家に帰るの？
「あしたの朝 鶏が鳴いたら家に帰りましょ
うね。弟よ そうしたらお家に帰りましょ
う」

お姉さん お姉さんってば
いつ僕たちは家に帰るの？
「あしたの夜が明けたらね
それまでは私の楽しみが終わらないの
弟よ とっても楽しいの」

お姉さん お姉さんってば
もう帰る時間だよ
「私は今彼と踊っているの
もし帰ると 彼女と踊ってしまうの」
弟よ 今日だけは許してね」

お姉さん おねえさんってば
何故そんなに顔色が悪いの？
「それは朝陽のせい 私の頬に・・・
弟よ 朝露がぬれているのよ」

お姉さん お姉さんってば
どうしてそんなに力なくよるめくの？
「お家はどこ 私のベットをさがして 弟よ
土の下のベットは気持ちよいでしょうね」

Wach auf, mein' herzensschöne
おきなさい 愛しい人よ

おきなさい 愛しき人よ
愛しい やさしい人よ
森の小鳥たちの美しい声がきこえる
あの愛らしい歌声は
東の方から朝の光が
さし込んで来たしるしなのだ

鶏が時を告げるのは
もう朝のしるしだ
涼しい風が吹き星はまたたいている
小夜鳥が我々のために美しいメロディーを歌い
朝の到来を高らかに告げる

おまえは僕の心をとらえ
変わりなき愛情に火をつけた
僕はおまえの姿をしばしばさがした
おまえに会えはしまいかと
そうしたらどんなに嬉しかろうと
真実を私は白状するが・・・

おまえが生まれた日と時は神聖なのだ
おまえの赤い唇に幸あれと祝福される
それこそは僕が選んだもの
おまえより愛しいものはなく
僕の愛はなくならない
おまえは僕のこの世で最高の安らぎ

All' mein Gedanken **すべての想いが**

すべての想いがあなたのもとに
あなたは僕の選んだ唯一の慰み
いつも僕のそばに居ておくれ
僕のことを思っておくれ
すべての思いが望みのままなら
僕はあなたから離れはしないよ
あなたは僕の選んだ唯一の慰み
僕のことを忘れないでおくれ
僕の中から心もすべて
あなたのもなのだ
僕はいつまでもあなたのものでありたい
あなたは僕に喜びと力をあたえ
くるしみを追いやってくれる
いとしい いとしい彼女は
やさしく 美しい乙女
このような娘は國中探しても
なかなか見つからない
あなたと一緒にならすべては幸福
彼女から去らねばならぬ時に
僕をとらえて離さぬ彼女
別れの来たときに
きよらかな娘は泣いた
あなたは僕のもの 僕はあなたのもの
彼女は悲しげに言った
私はあなたを忘れることは決して無い

そしてあなたのような恋人に
出会うことも決して無いのだ

Es steht ein' Lind **一本の菩提樹が**

一本の菩提樹が あの谷に立っている
ああ そこに何のために？
わたしが恋人を失った悲しみを
共に分かとうとしているのだ

小鳥が一羽 垣根にとまっている
ああ そこで何をしているのか？
わたしが恋人を失った嘆きを
共に分かとうとしているのだ

泉がひとつ 野原に湧き出ている
ああ そこで何をしようとしているのか？
わたしが恋人を失い、涙するのを
共に涙を流そうとしているのだ

Vier ernste Gesänge **四つの厳粛な歌** Op.121

・人の成り行きは

人間の成り行きは獣の成り行きと同じで
獣が死ぬように人間も死に
すべてはおなじ息吹である
そして人間は獣よりもなにつ勝るものはなく
すべてのものは虚しいからである
すべてのものは同じ所へ行きつき
すべてのものは塵から生じてまた塵に帰る
人間の魂は上へ昇って行き
獣の霊は地下に降って行くと誰が知ろうか
それゆえ人間はその動きによって楽しむに
まさることはないと わたしたちは見た
それが人間の分だからである
その後ひとがどうなるかを見せるために
誰があのだ世へ連れて行くことができよう
(旧約聖書 ソロモン伝道の書)

・私はふりかえりみた

私はふりかえりすべての人々がこの太陽の下で
不当な扱いに悩んでいるのを見た
不当な扱いのため悩む
そして慰める人もいない
そのものたちの涙が流されるのを見た
人々に不当な扱いをする者たちの権力は大きく
人々は慰める人を得ることはできなかった
それでなお生きている生者よりも
すでにみまかった死者をわたしは讃えていた
そしてまだ生まれてこない者
この世で起こっている悪を知らない者は
この両者よりも幸いある
(旧約聖書 ソロモン伝道の書)

・おお 死よ

おお 死よ おまえはなんと苦々しいものか
楽しい日々をすごし満足して
不自由のない生活をし
すべてのことが順調に運んで
その上 美味しいものを食べたいと思う人間が
死ぬことを考えるときは！
おお 死よ おまえはなんと苦しいものか

おお 死よ 貧者にはなんとおまえは
喜ばしいものか
力が弱く 年老いて
あらゆるものに悩まされ
もはや死にまさるものを持たず
なにも望むもののない者には
おお 死よ おまえはなんと喜ばしいものか
(旧約聖書外典 イエス・シラク書)

・たとえ私が人間の言葉や天使の言葉を

たとえ私が人間の言葉や天使の言葉を話しても
もし愛がなければ
わたしは鳴る青銅の鐘や響く鈴と同じであろう
またたとえ私に預言する力があり
あらゆる奥義と知識に通じていても
また山を動かすほどの
強い信仰心があったとしても
もし愛がなければ
私は無に等しい
またたとえ私が自分の全財産を貧者に施し
その上自分の身を焼かれる犠牲を払っても
愛がなければ
それは私にはなにも役に立たないであろう

私たちは 今は鏡に映して見るように
おぼろげな言葉で見ている
しかしやがて顔と顔を合わせてみるであろう
今 私はそれを部分的に知っているにすぎない
やがて私がよく知られているように
私はそれをよく知るであろう
さて 永遠に存続するのは
信仰と希望と愛の三つである
しかし この中で最も偉大なるものは愛である
(新約聖書 コリント人への第一の手紙)

(訳：河野克典)